保存先・接続・データ移行

Androidの新しい操作と、Mac・Windows Hubの変更点を確認できます。

読む順番

端末を使う方

Android章で登録・面談情報・同意・録音・送信・報告書の順に確認します。

管理する方

Hub章で利用登録、端末QR、録音受信、報告書の改訂・確認を確認します。

更新する方

共通章の更新手順から始めます。通常の上書き更新では、録音・履歴・登録を残します。

説明の対象：Android 1.0.16 / Hub 0.12.29 / iPhone・iPad 1.1.7

ストア審査・段階配信により取得できる版が異なることがあります。公開版は公式配布ページと各ストアで確認してください。

次のページの目次から、必要な操作へ直接移動できます。

目次

改訂版の使い方	3
データを残して更新する	4
QRを読み、Hubに登録する	5
つながっているか確認する	6

従来の詳細資料（操作の差分は改訂章を優先）

改訂版の使い方

AndroidとHubの変更点を、実際の操作順にまとめました。iPhone・iPadの既存手順も後半に残しています。

1 最初に読む範囲

Androidを使う方はAndroid章、管理者はHub章から始めてください。目次の項目名を押すと該当ページへ移動できます。

2 説明の対象版

Android 1.0.16、Hub 0.12.29、iPhone・iPad 1.1.7を基準にしています。AndroidとWindowsの新しい版はストア審査・配信待ちの場合があります。各ストアに表示される版を確認してください。

3 従来の詳細資料の読み方

後半には従来の接続・保存先移行・CRM・通話取り込み等の詳細資料を収録しています。当時の版数・ページ番号は履歴です。変更された操作は本書先頭の改訂章を優先します。

4 最新の配布と条件

公開中の版・対応環境・料金・契約条件は公式サイトで確認してください。個別の社内契約の特例を、一般向けの無制限・無償条件として扱わないでください。

公式ガイド https://kikorel.net/guide/ 配布 https://kikorel.net/downloads/ 2026年11月18日改訂

データを残して更新する

同じアプリを上書き更新し、同じ保存先と登録済みHubを使います。

1 更新前に確認する

録音を停止・保存し、未送信と処理中の件数を確認します。PCの保存領域と業務データを所属先の手順で控えます。

2 Mac・WindowsのHubを更新する

Macは公式の公証済みDMG、WindowsはMicrosoft Storeを使います。Hubを通常終了してから更新し、同じOSユーザー・同じ保存先で起動します。二重起動で別の保存先を作らないでください。

3 Android・iPhone・iPadを更新する

Google PlayまたはApp Storeで普段のKIKORELを上書き更新します。公開版と内部テスト版の区別、版数を確認します。更新のためにアンインストールしません。

4 更新後に一度接続を確認する

保存先PCのHubを起動し、端末で登録済みHubを選びます。未接続なら接続操作を行い、通信と過去の録音・報告書を確認します。通常の更新ではQRの再登録は不要です。

アプリ削除・データ消去・保存領域の初期化は、録音・暗号鍵・登録の喪失につながります。更新の対処として行わないでください。

QRを読み、Hubに登録する

保存先のPCでHubを起動し、管理者がAndroid用QRを表示しておきます。

Hub 未接続 → 接続画面	Android用QRを読む	登録・接続する	接続済みを確認

1 接続画面を開く

アプリ上部の「Hub」の接続表示、または「設定」→「Hub接続」を開きます。

2 Android用QRを読む

「Android用QRを読む」を押します。カメラの利用確認が出たら内容を確認して許可し、同じ所属先・利用者向けのQRを読みます。

3 登録内容を確認して接続する

署名を確認した表示、Hub名・利用者を確認し、「登録・接続する」を押します。公開Play版はアプリ専用の接続を使います。過去の検証用VPNアプリの手順を混用しません。

4 結果を確認して戻る

接続画面とアプリ上部の接続状態を確認します。録音権限がある利用者は面談入力へ進みます。登録失敗時はエラーを記録し、別Hubへ繰り返し登録しません。

QRは登録用の秘密情報です。チャットへ貼らず、通常の更新・再接続では保存済みの登録を使います。

つながっているか確認する

録音の保存先とHubの接続状態を、開始前に一度確認します。

1 表示を読む

アプリ上部とHub接続画面で、接続済み・再接続中・未接続・エラーを区別します。接続済みでもPC側が処理を完了したことまでは示しません。

2 一時的な切断から戻す

Hub PCと回線を確認します。回線が戻ると同じHubへの再接続を試みます。未接続のままなら「Hubに接続する」で接続し直します。

3 未送信を保持する

保存した時のHubと現在のHubが一致することを確認します。送信待ちの録音がある間は、登録削除・別利用者への切替で解決しようとしないでください。

4 停止条件を確認する

手動の切断、利用許可の停止・期限、OSの制限、PCのスリープ等は別途確認します。常時接続や全ての回線での自動復旧を保証する表示ではありません。

画面を離れたことと録音停止は同じではありません。録音状態とHub接続状態を別々に確認してください。

保険代理店向け 面談記録・証跡管理

KIKOREL
保存先変更・接続・データ移行

別フォルダ・外付けHDD／SSD、既存データのコピー、接続切替・バックアップ・PC交換。

録音・受信 → 自動処理 → 確認・承認 → 保存・保全

2026年10月18日版
Mac・Windows Hub 0.12.10 ／ iOS・iPadOS 1.1.1
13の操作項目・目次リンク付き

保存先変更の重要点

同じPCの別フォルダ・外付けHDD／SSDへ保存先を変更できます。既存データをコピーするON／今後だけ保存するOFFの違いを確認し、元データを残して照合・切替・再起動確認を行います。

本書は現行の操作画面・実装と公開配布情報を照合して制作しています。図は説明用で、実顧客・有効なQR・秘密情報を含みません。人の確認、条件付きの外部連携、利用環境での確認を区別しています。

【2026年11月3日追記】iPhone・iPadアプリ更新後の接続

1. App Storeで更新後、保存先PCのKIKOREL Hubを起動します。
2. アプリの接続設定で登録済みのHubを選び、一度「接続する」を押します。
3. 「通信を確認」を押し、接続先と通信成功を確かめてください。
通常の更新ではQRの再登録は不要です。アプリ・録音・履歴は削除しないでください。
1.1.6以降は、アプリを開いたときや回線が戻ったときに同じHubへの再接続を試みます。
手動切断・別VPNへの切替・利用許可の停止や期限は尊重され、常時接続の保証はありません。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

目次

項目名をクリックすると移動します。各ページ右下から目次へ戻れます。

接続先Hubの切替とQR設定の再開 3
保存先変更・バックアップ・Hub切替の違い 4
別フォルダ・外付けHDD／SSDへ変える前に 5
既存録音も一緒に新しい保存先へコピーする 6
今後の録音だけを新しい場所へ保存する 7
以前の保存先へ戻す・切替後の確認 8
外付け未接続・容量不足・コピー中断の対処 9
暗号化バックアップの範囲とパスワード 10
同じPCで旧Tailscale版から取り込む 11
PC交換：暗号化バックアップの書出し・取込 12
移行・保存先変更後の読戻しチェック 13
アプリ更新・二重起動・安全な再起動 14
録音が届かない・報告書が出ないときの順番 15

従来詳細資料｜変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

接続先Hubの切替とQR設定の再開

端末 → Hub接続・切り替え／QR読み取り

1 録音・転送を確認

録音中は切り替えません。未送信があれば元Hub向けの録音として残ることを確認します。画面に必要と表示された場合は「転送を停止して保存先を変更」を使い、停止を待ちます。

2 登録済みHubを選ぶ

一覧からMac・Windows等の対象を選択します。登録済みのHubへ戻るだけなら、通常はQRの再発行や元Hubの失効は不要です。VPNを切断して選択を切り替えます。

3 新しいHubを追加

対象Hubで本人用の新しいQRを発行して読み取ります。途中の設定は「設定を続ける」、期限切れは「新しいQRを読み直す」を使います。不要な途中設定を取り消しても、既存録音・正常な登録を削除する操作とは別です。

4 外出先接続と通信確認

外出先は「外出先接続（暗号化中継）」をONにし、接続後「通信を確認」を実行します。現在の正式版は専用の公開接続基盤を使います。旧試験の個人PCホスト名を設定しません。

確認：端末で選ぶ「保存先Hub」と、同じHub内の「録音保存フォルダ変更」は別機能です。同一PCのフォルダ変更では通常QR再登録は不要です。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

保存先変更・バックアップ・Hub切替の違い

Hub → 保存先設定（再起動後も保持）

親フォルダを選ぶ → コピー・一致確認 → 保存先を切替 → Hub再開・再確認

1 同じPCの保存先変更

内蔵の別フォルダ、別ドライブ、外付けSSD/HDDへ録音・履歴等の保存場所を変更する操作です。Hubと代理店が同じなら、端末QRの再登録や新しい契約コードは通常不要です。

2 選んだ親フォルダの中へ保存

「フォルダを選ぶ」で指定した場所の中に「KIKOREL-RecordingData」を作ります。親フォルダを選び、表示される最終パスまで確認します。元フォルダをFinder／Explorerで手動移動しません。

3 コピーと移動の違い

「既存データも一緒に移す」は、実際には元データを残してコピー・一致確認後に切り替えます。元のディスクの空き容量は自動では増えず、コピーは継続的なバックアップ同期ではありません。

4 PC交換は別機能

別PCや旧版からの移行は「データ移行・バックアップ」を使います。端末のHub切替は接続先の変更です。フォルダ設定だけで契約・鍵・登録端末・モデルを外付けへ丸ごと移すわけではありません。

目的	使う機能
同一PCの別フォルダ・外付け	保存先設定
旧版からの取込・PC交換	データ移行・バックアップ
端末から別Hubへ接続	Hub接続・切り替え

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

別フォルダ・外付けHDD／SSDへ変える前に

準備 → Hub → 保存先設定（再起動後も保持）

1 停止できる時間を確保

面談中・転送中・文字起こし中・PDF作成中は変更しません。全工程が終わったことを確認し、利用者へ受信停止時間を案内します。端末の未送信は端末に残ります。

2 媒体と容量を確認

自社管理のディスクを接続し、書込み権限と十分な空き容量を確認します。重要データの保存に適した暗号化・アクセス制限を設定します。公開・共有・クラウド同期フォルダは避けます。

3 現在地とバックアップを確認

現在の保存先とデータ件数を記録し、重要データの別バックアップを確認します。別Hubのデータがある場所、ショートカット／シンボリックリンク、現在地の内側・外側を包含する場所は選びません。

4 設定モードへ切り替え

「Hub → 保存先設定（再起動後も保持）」を選び、案内を読んで「受信を停止して保存先設定へ」を押します。受信終了後に専用設定画面が開くまで待ちます。二重操作・強制終了を避けます。

確認：外付け媒体・NAS・社内共有環境を全面保証するものではありません。まず架空データで対象PC・媒体の書込、再起動、読戻しを確認してください。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

既存録音も一緒に新しい保存先へコピーする

保存先設定 → 既存データも一緒に移す［ON・初期値］

フォルダを選ぶ → コピーON・停止確認 → コピー＋照合 → 通常Hubへ戻る

1 現在の保存先を見る

「録音・履歴・報告書の保存先」画面の現在地を確認します。「フォルダを選ぶ」を押し、新しい親フォルダを選びます。例：外付け内の「代理店記録」なら、その中のKIKOREL-RecordingDataが保存先になります。

2 コピーONを確認

「既存データも一緒に移す（コピーして一致を確認）」へチェックを入れたままにします。録音・履歴・文字起こし・報告書・承認記録・登録資料などのデータ領域をコピーします。

3 停止と所有を確認して実行

Hubが停止中で、このPC・同じ代理店の保存先であることを確認するチェックを入れ、「確認して保存先を変更」を押します。コピー件数の表示を見て、媒体を抜かずに待ちます。

4 照合後にHubへ戻る

ファイルの一致確認が終わり、保存先変更と照合件数が表示されたら「通常のHubへ戻る」を押します。途中で手動削除や追加コピーをしません。元データは自動削除されません。

5 旧データと新規保存を確認

従来の原音・履歴・報告書・承認・資料を開き、短い試験録音が新しい場所へ保存されることを確認します。アプリを終了・起動し直して保存先保持も確認します。

確認：契約認証・秘密鍵・端末登録・モデル等はPC内の管理場所に残ります。「全データを外付けへ移せた」と判断しないでください。

従来詳細資料｜変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

今後の録音だけを新しい場所へ保存する

保存先設定 → 既存データも一緒に移す［OFF］

1 OFFの意味を確認

過去の録音・履歴を新しい場所へ持ってこず、今後の保存先だけを変える方式です。旧録音・旧履歴は以前の場所に残り、新しい保存先の履歴には表示されません。

2 未完の処理を確認

転送・文字起こし等が残る場合はこの方式での変更が拒否されます。完了を待つか「既存データも一緒に移す」をONにします。未完データや設定ファイルを消して制限を解除しません。

3 場所と確認チェック

新しい親フォルダを選び、コピーのチェックを外し、表示された説明を読みます。募集方針等の参照資料は引き継ぎます。停止中・同じ代理店の確認を入れて「確認して保存先を変更」を押します。

4 運用を再開

完了後「通常のHubへ戻る」を押します。新しい場所の履歴と試験録音を確認し、旧場所が残っていることを確認します。旧履歴が見えないことをデータ消失と判断しません。

確認：過去の案件も一つの履歴で継続して使う場合はONを選びます。OFFは履歴を分けて運用する意図があるときに使います。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

以前の保存先へ戻す・切替後の確認

保存先設定 → 以前の保存先へ戻す

1 必要なディスクを接続

現在の保存先と、戻したい以前の場所のディスクを両方接続します。新旧Hubではなく同じHubの保存先履歴であることを確認します。

2 以前の場所を選択

処理完了後に受信停止の設定画面を開き、「以前の保存先へ戻す」で対象パスを選びます。別PC・別Hubのフォルダを戻り先にしません。

3 コピー有無を再判断

現在地の新しい録音も戻り先へ持つ場合はコピーONを選びます。OFFなら現在地だけの旧録音はその場所に残ります。同名で内容が異なるファイルがあれば、上書きせず停止します。

4 変更・再起動・読戻し

停止・所有確認後に変更して通常Hubへ戻ります。原音、報告書、承認、資料、利用者権限、新規試験録音と、再起動後の保存先を確認します。正しい場所へ戻っただけで全履歴の統合完了としません。

確認：保存先設定は再起動後も保持されます。以前の場所へ戻しても競合データの自動統合・不要データの自動削除はしません。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

外付け未接続・容量不足・コピー中断の対処

保存先設定のメッセージ／Hubの接続エラー

1 ディスクがない・識別が違う

元の保存先ディスクを正しく接続し、パス・アクセス権を確認します。保存先を確認できない場合は受信を停止し、内蔵の既定フォルダへ黙って戻しません。接続後にHubを再試行・再起動します。

2 容量不足・書込不可

新しい場所の空き容量とOSの権限を確認します。コピー先にはデータ本体以外の作業用余裕も必要です。元データを削除して空きを作らず、別の十分な媒体を選びます。

3 未知のフォルダ・競合

別データが入っている場所、別Hubの領域、リンク、入れ子、同名異内容を拒否します。メッセージに従って実体の空フォルダ等を選びます。保護用の識別ファイルを手動編集・削除しません。

4 コピーが中断した

成功表示前の中断では元の保存先が有効なままです。元と先を残し、電源・接続を直して同じ変更を再試行します。同一内容のコピー済みファイルは再利用されますが、異内容は上書きしません。

5 復旧できない場合

現在パス、選択先、コピーON/OFF、表示エラー、時刻、版数を控えてWebサポートへ連絡します。契約コード・端末登録・認証を削除して対処しません。

確認：保存先障害が接続開始の一般エラーとして出る場合もあります。まずディスクと保存先を確認してください。稼働中の外付け取り外しは避けます。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

暗号化バックアップの範囲とパスワード

Hub → データ移行・バックアップ（PC買い替え／旧版から移行）

1 保存先変更と区別

バックアップは障害・旧版移行・PC交換に備える控えです。保存先変更後に残った旧フォルダは、その後の録音を追従するバックアップではありません。定期保全を別途決めます。

2 Hubを停止

録音受信・文字起こし・報告書作成の終了を確認し、元PCと先PCの対象Hubを停止して移行画面を開きます。動いているデータ領域を手動で上書きコピーしません。

3 書出し範囲

移行機能は録音・文字起こし・報告書・承認記録・登録した方針資料、原本・要約・承認版・適用日等を扱います。契約認証・秘密鍵・端末登録は移しません。現行の暗号化移行にはCRM単票出力・一括CSV・API送信履歴／トークン、モデル、設定の一部は含まれません。必要な保全は管理者が別途行います。

4 12文字以上のパスワード

一致するパスワードを2回入力し、安全に保管します。パスワードは保存・再発行できません。バックアップフォルダと同じ場所に平文で置かず、取込先で同じものを使います。

5 非公開の保管

USB等の管理された媒体を選び、生成したフォルダ全体を保管します。実顧客データを公開URL・共有引継ぎフォルダ・一般チャットへ置きません。保管場所・実施日・読戻し結果を管理します。

確認：VPSの契約データのバックアップに、代理店PC内の録音が含まれるとは考えないでください。媒体の暗号化とアクセス権も管理します。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

同じPCで旧Tailscale版から取り込む

移行・バックアップ → 旧版から取り込む（安全用バックアップ付き）

1 旧データを保持

旧Hubの録音転送を終え、旧Hubを終了します。旧アプリ・保存領域を消さずに、新Hubの同じ代理店の契約登録を先に完了します。旧版が自動移行済みだとは扱いません。

2 元の保存先を特定

「保存先を探す」でこのPCの既定候補を確認し、パス・ファイル数・容量を見ます。見つからないときは旧Hubの正しいデータ保存先を手動選択します。音声ファイル単体ではなくデータ領域を指定します。

3 所有とパスワード

12文字以上のパスワードを2回入力し、「同じ代理店が所有するデータであり、旧Hubを終了した」確認を入れます。新旧代理店・契約が異なるデータを混ぜません。

4 安全用バックアップ付き取込

「旧版から取り込む」を押し、暗号化バックアップ作成と取込を待ちます。既存の異なる同名ファイルは上書きせず停止します。完了後に通常Hubへ戻ります。

5 本人IDと端末を確認

旧版と同じ利用者IDで権限を整え、新しい統合QRで端末を登録します。旧Hub向け未送信録音を新Hubへ自動で付け替えません。原音・資料・承認を読戻してから運用を切り替えます。

確認：この操作は、同じ正式Hubの保存フォルダだけを変える操作ではありません。旧版のURL・QR・保存許可を新版へ流用しません。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

PC交換：暗号化バックアップの書出し・取込

移行・バックアップ → ① 旧PCでバックアップだけ作る → ② 新PCで取り込む

1 新PCの準備

対応OSの正式Hubを導入し、同じ代理店・契約の登録を確認します。契約のHub枠・旧PCとの切替が必要な場合は管理者へ確認します。フォルダをコピーするだけで登録を複製しません。

2 旧PCで書き出す

旧Hubを終了し、元保存先・所有確認・12文字以上のパスワードを入力して「① 旧PCでバックアップだけ作る」を実行します。旧PCには契約登録がなくても書出し可能な入口です。

3 フォルダ全体を運ぶ

書出したフォルダを、管理された媒体で新PCへコピーします。中のmigration.jsonとデータ一式を揃え、ファイルを抜き出したり書き換えたりしません。パスワードは別に管理します。

4 新PCで取り込む

新PCの移行画面で同じパスワードと所有確認を入力し、「② 新PCでバックアップを取り込む」からmigration.jsonの入ったフォルダを選びます。別代理店契約への取込はできません。

5 運用を切替

読戻し確認後に新PCへ端末を登録し、利用者ID・営業所・役割を確認します。CRMのAPI接続は新PCで送信OFFから再設定し、相手側の既存送信を照合して再開します。確認が終わるまで旧PC・旧データを保持します。

確認：録音データの取込と、契約認証・端末登録・外部CRM送信履歴の移行は別です。不明な部分はサポートへ確認してください。

従来詳細資料｜変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

接続・保存・移行

移行・保存先変更後の読戻しチェック

変更後のHub／元データと新データの照合

1 データの同一性

パス、件数、対象日時・案件を確認し、複数件の原音を最後まで再生できるか、文字起こしとPDF・報告書の版が対応しているか確認します。コピー完了表示だけで業務受入にしません。

2 承認・資料

承認者・承認日時・承認済み版、プライバシーポリシー・募集方針の原本・要約・適用日・配信状態を確認します。旧版文書を新しい有効版と誤認しません。

3 権限・接続・新規録音

利用者IDと閲覧範囲、端末登録、外出先接続、新規試験録音の保存先・自動処理を確認します。同一PCのフォルダ変更と別PC移行でQR再登録の要否が異なります。

4 バックアップと再起動

Hubの終了・起動後も正しい保存先が保持されるか、外付け媒体を正しく接続して読み出せるかを確認します。バックアップの場所とパスワード管理も記録します。

5 完了記録

担当者、版数、日時、元と先の場所、確認した件数・媒体・回線、問題点・未確認項目を記録します。旧データの整理・削除は保管規程と別の判断で行い、本書の操作として自動削除しません。

確認：移行先で旧履歴が見えない場合は、コピーOFF、保存先、検索条件、本人ID、権限を先に確認します。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

運用・困ったとき

アプリ更新・二重起動・安全な再起動

Hub → アプリを終了／各公式配布先

1 更新前に保全

端末の未送信とHubの処理完了を確認し、旧アプリ・録音・登録情報のバックアップを確保します。モデルやデータを消して新規インストールする操作を、通常更新の代わりにしません。

2 完全終了して更新

Hubメニューの「アプリを終了」を使います。×では受信が続きます。Macは公式DMG、WindowsはMicrosoft Store、iPhone・iPadはApp Storeから更新します。

3 競合案内を読む

起動中・終了待ち等の表示が出たら、対象の旧Hubを正常終了してから再試行します。0.12.10は設定・移行への再起動の連打をまとめ、受信の終了に失敗した場合は切替を止めます。

4 更新後に確認

版数、保存先、契約・端末登録、旧録音・資料・承認、新規の試験転送を確認します。旧Store版・旧EXE版がある場合は管理者が共存・常駐設定を確認します。

確認：二重起動や更新失敗の対処として、関連プロセス・タスク・録音を一括削除しません。Store公開と個々のPCでの更新完了は別です。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照

運用・困ったとき

録音が届かない・報告書が出ないときの順番

端末保存 → 接続 → Hub受信 → 自動処理 → 閲覧

端末内保存 → 接続・ディスク → Hubの原音 → 処理・権限を確認

1 端末の原音を守る

録音終了と端末内保存・未送信・区間数・警告を確認します。アプリを削除、端末初期化、元データ削除をしません。案件ID・元Hub・時刻を記録します。

2 接続と保存先を確認

正しいHubが起動し、スリープしていないか、外付けが接続され書込み可能か確認します。端末のVPN・外出先接続・通信確認を行い、対象録音の再確認・再送を使います。

3 受信と自動処理を確認

Hubの保存済み録音で受信・結合・原音を確認し、処理状況で待ち／文字起こし／判定／PDFのどこかを特定します。モデル・容量・最終エラーを確認します。

4 閲覧条件を確認

報告書の月・面談日／保存日・検索・承認状態、本人ID・営業所権限、現在の保存先を見直します。コピーOFFなら旧履歴は以前の場所です。

5 解決しなければWebへ

操作とエラーを記録し、公式サイトのチャットボットまたはお問い合わせフォームへ連絡します。公開画面へ原音・契約コード・APIトークンを貼らず、必要情報を確認します。

確認：進捗が止まって見えるだけで処理を連続再実行しません。長時間の文字起こしでは更新時刻が動かない場合があります。

従来詳細資料 | 変更後の操作は先頭の2026.11.18改訂章を参照